

## 認知症高齢者におけるバーチャルリアリティー視聴を取り入れた回想法の効果検討

東京藝術大学大学院 大村直子 (010331)

キーワード：認知症高齢者、回想法、バーチャルリアリティー

## 1. 研究目的

本研究の目的は、認知症高齢者におけるバーチャルリアリティー（以下、VR とする）視聴を取り入れた回想法が、認知症高齢者本人および介護職員に対してどのような効果をもたらすのかを検討することである。日本の高齢化率は 2022 年 9 月 15 日現在推計で 29.1% であり、75 歳以上の後期高齢者の割合も初めて 15% を超えた<sup>i</sup>。2025 年には約 5 人に 1 人が認知症者になるとされている<sup>ii</sup>。2015（平成 27）年に公表された認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）では、認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともにより良く生きていくことができるような環境整備が必要であると述べている<sup>iii</sup>。2024 年 1 月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」では、「認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会の実現の推進」している<sup>iv</sup>。だが、認知症当事者は偏見・蔑視にさらされ、人格変化・崩壊・抜け殻（Non-person）とされてきた（會田 2015）<sup>v</sup>。そのため、病識があるとされる初期の認知症当事者は、潜在的・顕在的不安が高いことが指摘されている（黒川 2013）<sup>vi</sup>。認知症高齢者の辛さや苦しさはスピリチュアルペインにあたり、それをやわらげ軽くするケアの必要性が指摘されている（土井 2017：13-18）<sup>vii</sup>。スピリチュアルペインを軽減する方法として傾聴の有効であり、傾聴が「他者の存在の回復と支持」を実現するとされる（村田 1996）<sup>viii</sup>。また、援助関係の構築が困難な認知症高齢者の援助には、傾聴が有効であるとの指摘もある（渡邊 2021）<sup>ix</sup>。傾聴により、高齢者に対するイメージ変容が見られたとする研究も複数ある（小木曾 2010）<sup>x</sup>（畑野ら 2020）<sup>xi</sup>（山田ら 2021）<sup>xii</sup>。認知症高齢者のレクリエーションは様々あるが、本研究では、認知症高齢者が自ら語る人生史や過去のエピソードを受容的、共感的に傾聴するとされている（黒川 2013）回想法を用いる。認知症高齢者の回想の手助けになる手法として、VR 視聴を採用する。VR 視聴が認知症高齢者の心因性ストレス緩和に影響すると示唆されており（中島ら 2024）<sup>xiii</sup>、回想の呼び水としての役割に加え、ストレス緩和の効果が期待できる。VR 視聴用動画は、個々の認知症高齢者のライフストーリーに合わせたコンテンツを準備して提供した。

## 2. 研究の視点および方法

調査対象者：通所介護（デイサービス）を利用する認知症高齢者及び職員

研究方法：認知症高齢者に複数の動画から興味のある場所の VR 動画を視聴してもらい、動画によって想起したことを語ってもらう。筆者は傾聴する。

場所、実施回数、時間：通所介護施設において、同一人物に対し 3 回以上、各回 10 分程度実施する。

評価方法：高齢者・余暇活動の楽しさ評価法<sup>xiv</sup>、CTSD、DBD-13

## 3. 倫理的配慮

本研究を行うにあたり、「日本社会福祉学会 研究倫理規程」を遵守し、通所介護施設所長及び研究協力者に研究の主旨、研究の参加は自由意志であることを伝え、途中で辞退することも可能であること、研究協力しないことによる不利益を被らないこと、研究成果の公表の際には個人が特定される内容は公表しないこと、データは本研究の目的以外には使用しないことを文口頭で説明し、研究参加への同意を得た。なお、個人が特定される可能性がある場合はイニシャルで表記する。

本報告に関連し、開示すべき COI 関係にある企業等はありません。

#### 4. 研究結果

認知症高齢者の QOL の向上、介護職員の認知症高齢者への理解の促進が得られること及び VR 機器が認知症高齢者への回想法ツールとして有効であることが示唆される。

#### 5. 考察

認知症は進行性の疾患であり、長期的な視点での検討も重要である。認知症の進行段階ごとの効果検証や、個別プログラムの開発が必要となろう。全ての認知症高齢者に VR 視聴が有効であるとは限りません。利用者の中には、VR 視聴によって不安や混乱を感じたり、過去のトラウマを思い出したりする人もいる可能性がある。筆者以外の他の人が実施しても同様に効果があるのかどうかは明らかではない。マニュアル化しスキル共有を図ることにより質を担保する必要がある。また、サンプル数が少なく、研究成果を一般化するためには、実施数を担保する必要がある。

- 
- i 総務省統計局ホームページ：統計トピックス No.132 統計からみた我が国の高齢者。2022.9.18
- ii 内閣府：平成 29 年度版高齢社会白書。2017
- iii 厚生労働省：認知症施策推進総合戦略—認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて—（新オレンジプラン）<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000072246>（最終閲覧日 2024/6/16）
- iv 厚生労働省：認知症施策推進大綱について  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236\\_00002.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236_00002.html)（最終閲覧日 2024/6/16）
- v 會田信子、大川明子(2015).認知症ケアにおける患者の尊厳と倫理上の課題.日本看護倫理学会誌 7 巻 1 号.日本看護倫理学会,118-119
- vi 黒川由紀子(2013).認知症高齢者への回想法：高齢者への接し方の基本姿勢を踏まえて.広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要 12.広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センター,3-6
- vii 土井輝子(2017).認知症介護におけるレクリエーションデザイン方法論の研究.京都工芸繊維大学博士論文.
- viii 村田久行(1996).傾聴の援助的意味：存在論的基礎分析.東海大学健康科学部紀要第 2 号.東海大学健康科学部,29-38.
- ix 渡邊篤尚(2021).援助ができる関係の構築が困難な認知症高齢者とその支援者へのソーシャルワーカーによる対人援助論に基づく援助と成果.老年社会科学 43 巻 1 号.日本老年社会科学会,49-58
- x 小木曾加奈子、安藤邑恵(2010).看護学生における高齢者理解-ライフストーリーのインタビューを基にした内容分析-.教育医学 55 巻 3 号.日本教育医学会,283-292
- xi 佐藤忍、金子昌子、湯澤淳、丸井明美、鶴見幸代(2020).高齢者を対象とした看護学実習での受け持ち対象者と学生の学びの実態.獨協医科大学看護学部紀要 14.獨協医科大学看護学部紀要,23-27
- xii 山田千春、末安明美、西山章弘(2021).高齢者の価値観形成過程に着目した対象理解—看護系大学生の高齢者ライフストーリー・インタビューより—.日本ヒューマンケア科学会誌 14 巻 2 号.日本ヒューマンケア科学会,73-82
- xiii 中島龍彦、池知良昭、城戸正臣、沖雄二(2024).単群試験における認知症高齢者のストレスに対するパーソナルリアリティ視聴の効果検討.作業療法の実践と科学 6 巻 2 号.公益社団法人北海道作業療法士会, 47-51
- xiv HonkeT,YamadaT,IshiiY,KobayashiN(2016).Reliability and validity of the Japanese Elderly version of Leisure Activity Enjoyment Scale. The Journal of Japan Academy of Health Sciences 19,129-139